



YBHD

株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

株主通信

YBHD NEWS No.56

平成30年11月



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに、株主通信「YBHD NEWS」第56号をお届けいたします。  
我が国経済につきましては、米中貿易摩擦、中国経済の減速など海外情勢が不透明感を増すなか、台風、地震等の自然災害による影響が懸念されますものの底堅く推移しており、企業の設備投資も回復基調にあります。また、東京五輪関連の建設投資も活発化してきており、公共投資も堅調に推移しているところです。



橋梁事業の事業環境につきましては、国土交通省並びに高速道路会社からの発注が堅調に推移し、国内橋梁の発注量は前年同期を上回りました。このような状況下、当社グループにおきましては、大型工事の受注などにより、橋梁事業の受注高は上期の過去最高を更新することができました。エンジニアリング関連事業につきましても、システム建築事業で工場・倉庫等の旺盛な需要が継続し、受注高は大幅な増加となりましたため、当社グループの当第2四半期累計期間における受注高、売上高は、共に上期として過去最高となりました。

一方、損益につきましては、システム建築事業における受注増を背景とした生産量増に伴う外注費用増等の影響により、前年同期を超えられず、増収減益の経営成績となりました。今後、システム建築事業におきましては、千葉県茂原市に建設中の新工場での内製化、受注案件選別および販売価格見直し等により採算性の改善を図るとともに、橋梁事業におきましても一層の損益改善に努めてまいります。

品質問題の連鎖は日本のものづくりへの信頼を揺るがしており、当社グループにおきましては、コンプライアンスと

品質管理には細心の注意を払い、また工事安全の確保につきましても、引き続き徹底した安全管理を行ってまいります。

また、現在、来年度を初年度とする3か年の第5次中期経営計画を策定中です。不透明な海外情勢、厳しい事業環境、働き方改革等、様々な課題がありますが、安定的な成長を目指し、グループ一丸となり、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

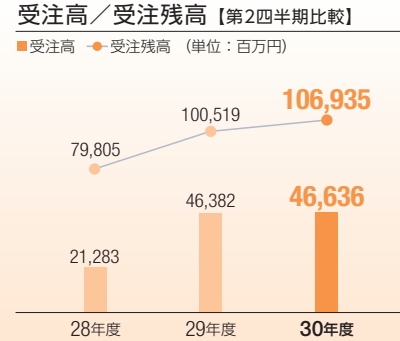
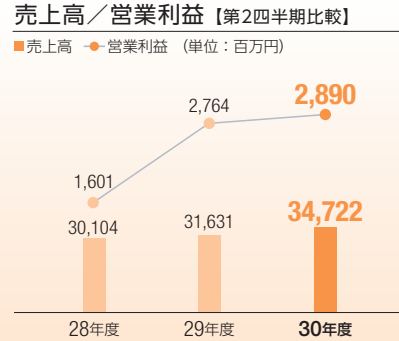
平成30年11月

- 橋梁事業** 国土交通省並びに高速道路会社からの発注が堅調に推移したことを背景に、大型工事を受注することができ、橋梁事業の受注高は上期の過去最高を更新
- エンジニアリング関連事業** システム建築事業で、旺盛な需要が継続し、受注高が大幅に増加。売上高も大幅に増加したものの、外注費用の拡大等により営業利益は減少
- 先端技術事業** 精密機器製造事業の需要がやや伸び悩み、受注高が減少



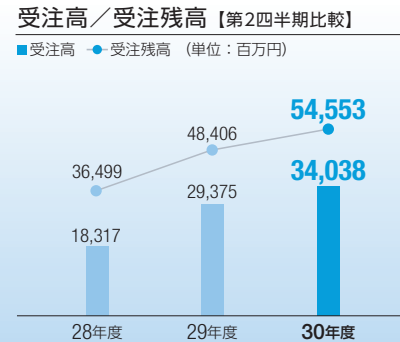
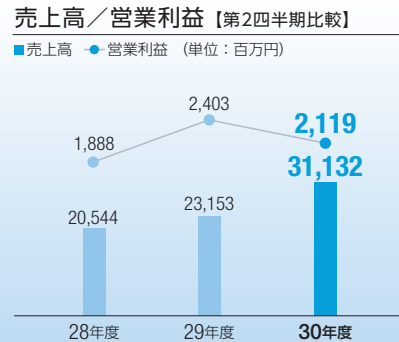


### 橋梁事業



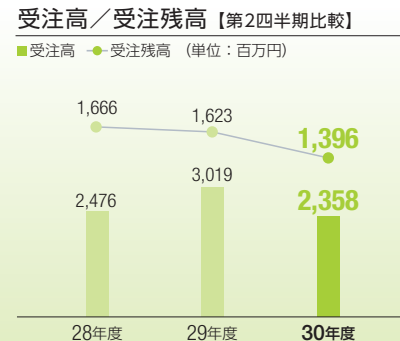
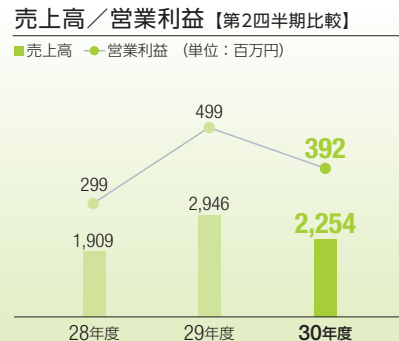
- 売上高につきましては、猛暑・台風などの影響も受け若干伸び悩みましたが、前年同期を上回りました。営業利益につきましても、大型工事の竣工時精算等で改善しましたので、増収増益とすることができました。豊富な受注残高がありますため、橋梁事業は下期も好調に推移すると予想しております。
- 通期の業績は、売上高740億円、営業利益66億円と予想しております。

### エンジニアリング関連事業



- 売上高は大幅に増加いたしました。営業利益は前年同期比減となりました。7月以降、システム建築事業の採算性改善に努めてまいりましたが、受注の勢いは容易には止まらず、結果的に部材製作と現場施工について外注費用が拡大する傾向が続きました。現在の利益率の実態から下期の営業利益を下方修正した上で、受注につきまして案件の選別とさらなる価格の見直しに踏み切ることといたします。また、8月には生産能力拡大のための新工場の建設に着手いたしました。より多くのニーズに一日も早く応えられますよう、来夏の稼働開始に向け準備を進めてまいります。
- 通期の業績は、売上高660億円、営業利益43億円と予想しております。

### 先端技術事業



- 受注の減少により、売上高、営業利益共に前年同期を下回りました。
- 通期の業績は、売上高43億円、営業利益7億円と予想しております。



# パキスタン国道70号線橋梁工事

🇵🇰 インダス文明に思いをよせて



## パキスタン国内基幹ルートの道路拡幅等工事

パキスタン中部に位置する国道70号線は、国土を東西に接続する基幹ルートで、鉱業生産物や農作物等の輸送を担っています。そのうち、山岳部(スライマーン山脈)の34kmは、道幅が狭く、丘陵で急カーブがあるため、トレーラー等の大型車両は通行することができず、迂回を余儀なくされています。そのため、山岳部の道路拡幅等の整備事業としてODAの有償プロジェクトが実施され、当社は鋼桁部の製作・架設に携わっています。

橋梁形式	4径間連続3主箱桁
鋼重	2,232 t



## カーブを緩やかにし交通事情や事故防止に寄与

本鋼桁は、橋長100mの非合成曲線箱桁(耐候性鋼板)7連で、つづら折りのきついカーブ7地点の外側に鋼桁を架設し、カーブ曲線を半径30mに緩和します。1スパン目は、油圧クレーン2台による相吊り架設工法、2スパン目以降は、張り出し架設工法で行います。鋼桁はベトナムで製作し、海上輸送して現場に搬入しました。

天候は40℃位のとときもありますが、湿度が低く日本のようなジメジメ感はありません。架設担当の日本人は5名で、現地ワーカーと一緒に作業します。現地の方々は、鋼桁の架設作業を今回初めて行いますが、覚えも良く、しっかりと作業をしてくれています。



## 2スパン目 張り出し架設工法



## キャンプでの生活

現地は山岳地帯で、設営したキャンプに宿泊しています。食事は現地のコックさんが日本食を作ってくれるので大変助かっています(日本食材はタイから持ち込みます)。イスラム教国ではありますが、ビールがあり、たまに日本などから持ち寄った焼酎やウィスキーを飲んでます。

当社チームが日本から現地へ向かう際は、ドバイを経由して入国し、パキスタン第6の都市ムルタンで1泊して朝から4時間かけて現場入ります。その中間地点にインダス川が流れ、上

流にはインダス文明最大級の都市遺跡であるモヘンジョダロ遺跡があります。工事は来年5月に完了する予定です。最後まで無事故・無災害で頑張ってください。





# 日本財団パラリンピックサポートセンター 日本財団パラアリーナ建設工事

2018年5月竣工、6月にオープンした「日本財団パラアリーナ」は、2020年の東京パラリンピックを目指すアスリートの方々の練習施設となる、パラスポーツ専用体育館です。本施設は、これまでパラフリー化や競技に使用する器具の関係で練習場所の確保が困難であった状況を解消してアスリートが日常的に練習できる環境を整備するとともに、パラリンピックやパラスポーツの普及、啓発イベントの実施を目的に建設されました。



建物は間口47.3m×奥行61.7mで、体育館やトレーニングルーム、更衣室、会議室、管理事務所から構成されています。なかでも体育館は、間口47.3m×奥行42.4m×高さ7mの大空間で、バスケットボールコート2面分を確保できる広さとなっています。

12月には車いすの格闘技とも言われるウィルチェアラグビーの日本一を決める日本選手権20回記念大会が開催される予定です。今後も色々な大会が開催され、パラスポーツの競技拠点になることが大いに期待される施設です。

建設場所	東京都品川区東八潮3-1
元請会社	JSC株式会社
建築面積	3,325㎡



# 史跡鳥取城跡擬宝珠橋水中梁製作工事

鳥取城跡擬宝珠橋は、1621年に創建された全長36m幅6mの木造橋で、「国指定史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備事業」の第一段階として鳥取城跡のメインルートである「大手登城路」の復元整備を行うにあたり、最初に復元された大型建造物となります。

参勤交代の玄関口になっていたほか、藩領の測量の起点ともなり、また月見の宴が催されたり、端午の節句には若殿が橋の上から祭礼を見物するなど、さまざまに活用されてきました。

国指定の建造物の復元は、遺構を傷つけることなく復元することが求められます。そのため、擬宝珠橋の復元では、発掘調査で確認されたすべての橋脚の遺構を保全するため、現在のコンクリート橋の基礎を利用して、ステンレス製の水中梁を設けた上で木造橋を復元するという日本初の工法が採用されました。

この工法により、木造橋の耐用年数を飛躍的に向上させ、また江戸期の橋脚の遺構があった場所の真上に、新しい橋脚を建てるのが可能になり、復元の精度が向上しました。

擬宝珠橋は、2018年9月10日に竣工し、10月8日には、晴れて旧藩主池田家ご当主による渡り初め式が開催されました。



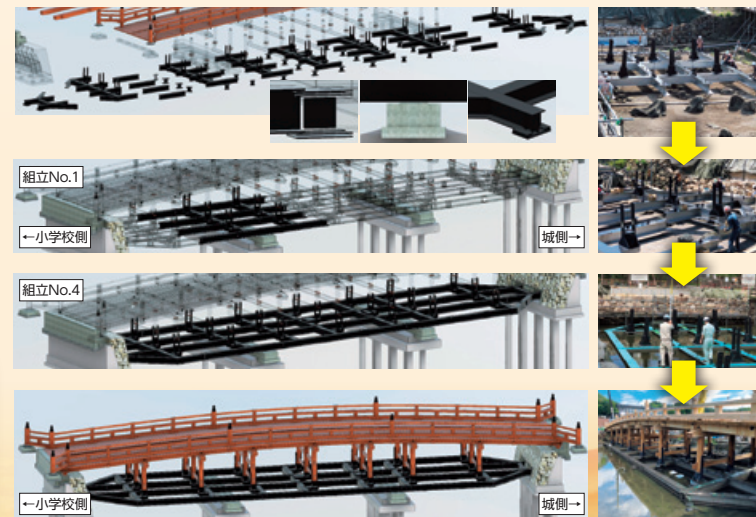
今後も榊崎製作所は、たゆまぬ技術革新と挑戦により、社会の発展に寄与していきます。

所在地	鳥取県鳥取市東町2丁目
構造形式	3径間連続ステンレス梁構造
全長	約36m
ステンレス重量	36t



日本初!

「水中梁」を設けた上に木造橋を復元!





■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前 期 末 平成30年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間末 平成30年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	92,176	88,366
固定資産	52,820	56,700
有形固定資産	24,700	27,696
無形固定資産	1,140	1,280
投資その他の資産	26,979	27,723
資産合計	144,997	145,066
<b>負債の部</b>		
流動負債	40,746	45,459
固定負債	23,555	15,443
負債合計	64,302	60,903
<b>純資産の部</b>		
株主資本	71,385	74,260
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,089	10,185
利益剰余金	55,537	58,379
自己株式	△ 3,677	△ 3,739
その他の包括利益累計額	7,421	7,891
非支配株主持分	1,888	2,012
純資産合計	80,695	84,163
負債純資産合計	144,997	145,066

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 平成29年4月 1日から 平成29年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成30年4月 1日から 平成30年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,462	1,692
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,336	△ 5,003
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,298	△ 714
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,827	△ 4,015
現金及び現金同等物の期首残高	16,447	23,224
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,275	19,208

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 平成29年4月 1日から 平成29年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成30年4月 1日から 平成30年9月30日まで
売上高	58,115	68,457
売上原価	48,835	59,343
売上総利益	9,279	9,114
販売費及び一般管理費	3,949	4,094
営業利益	5,330	5,020
営業外収益	295	285
営業外費用	199	199
経常利益	5,426	5,106
特別利益	0	3
特別損失	75	10
税金等調整前四半期純利益	5,351	5,099
法人税等	1,663	1,593
四半期純利益	3,687	3,505
非支配株主に帰属する四半期純利益	138	125
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,549	3,379

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 会社概要

社 名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所 在 地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資 本 金	9,435百万円
主 な 機 能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

■ 役員一覧

代表取締役社長	藤 井 久 司
代表取締役常務	高 木 清 次
取 締 役	宮 本 英 典
取 締 役	高 田 和 彦
取 締 役	大 島 輝 彦
取 締 役	小 林 明
取 締 役	北 田 幹 直 (社外取締役)
取 締 役	亀 井 泰 憲 (社外取締役)
常 勤 監 査 役	荒 渡 薫
常 勤 監 査 役	廣 川 亮 吾
監 査 役	志々目 昌 史 (社外監査役)
監 査 役	八 木 和 則 (社外監査役)
監 査 役	西 山 重 良 (社外監査役)

■ 株式の状況

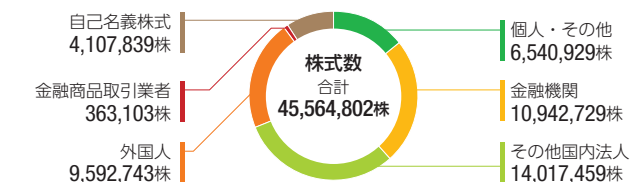
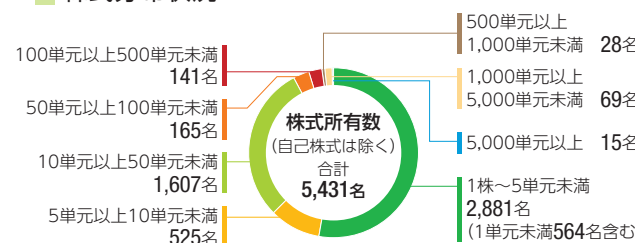
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	5,431名

■ 大株主 (上位10名)

株 主 名	所有株数(千株)	持株比率(%)
横河電機(株)	2,234	5.39
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,052	4.94
新日鐵住金(株)	1,987	4.79
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	1,867	4.50
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,739	4.19
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	717	1.72
住友不動産(株)	674	1.62
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	632	1.52
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST LIMITED FOR SMT TRUSTEES LIMITED FOR JAPAN SMALL CAP FUND CLT AC	619	1.49
東プレ(株)	616	1.48

(注) 1. 当社は、自己株式を4,107,839株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="http://www.ybhd.co.jp/">http://www.ybhd.co.jp/</a>



### yess建築で施工した 日本財団パラアリーナ

建設場所: 東京都品川区東八潮3-1  
元請会社: JSC株式会社  
建築面積: 3,325㎡

表紙写真は、yess建築で施工した日本財団パラアリーナ(東京都品川区)  
詳細は、P.7をご覧ください。

## YBHDグループ



**株式会社 横河ブリッジホールディングス**  
グループ全体の経営管理



**株式会社 横河ブリッジ**  
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造



**株式会社 横河システム建築**  
システム建築・開閉式建築システム・環境



**株式会社 横河住金ブリッジ**  
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



**株式会社 檜崎製作所**  
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



**株式会社 横河技術情報**  
情報処理サービス・ソフトウェア開発



**株式会社 横河ニューライフ**  
不動産管理・情報システム・人材派遣



**株式会社 ワイシーイー**  
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



**Yokogawa Techno Philippines, Inc.**



**株式会社 横河ブリッジホールディングス**

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号  
TEL. 03-3453-4111 (代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

